

寺音観
校第一高

同窓会報



平成22年度

立校会
香川 立校会
観音寺第一高等学
同窓



ごあいさつ

同窓会長

三宅 昭二
(観一28年卒)

同窓会の皆様お元気ですか。いつも同窓会活動には深いご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

お陰さまで観一高同窓会は、支部・年次共に組織化が順調に進んでおります。支部では『善通寺』も再組織化の動きとなり期待しています。今年五月三十日の総会も、昨年同様に四百五十名の参加で大盛況でした。お世話を担当して下さった四十三年卒と五十六年卒の年次の皆さんには心からお礼申し上げます。新任の島田校長先生が「他校の同窓会では例を見ない人数と活況である」と驚かれた程で

した。総会は正に「観一が好きなんじゃア」と云う老・壮・青・男女の集りでありました。肩書きを外して楽しく語り合える同窓会ならではの温かい光景が展開されました。

会員の方々が自発的に振り込みをして下さる年間一千円の会費の一部は、在校生のための育英基金や部活動への振興奨励金ともなっており、生徒達に感謝されているところです。

さて、いよいよ今年には創立百周年記念の年となりました。私達は三年前から五つの部会を立ち上げ、副会長が各部長となり、理事の方々と専門家・観一高の先生方が一体となって取り組んで参りました。①資料館の整備。②三女講堂のミニチュア展示。③バス(29人乗)寄贈。④記念誌発行。と、十月中旬現在お陰さまで、ほぼ完了にこぎつきました。この間、全国各地の三千余名の方々に寄せられた募金は、目標の二千万円を越えることとなり、有難い限りです。心よりお礼申し上げます。又各事業に関しては一貫して学校側・

ました。

記念式典の第一部では、式典に引き続き、大西廣氏(観一30年卒)による『琴弾八幡宮縁起絵』についての記念講演が行われました。その後、第二部として、祝賀会を催し、ご来賓の香川県知事、浜田恵造氏(観一46年卒)を始め三百名の同窓の皆様方のご出席を頂き、大いに盛り上がりました。

また今年には、同窓の大先輩である大平正芳元首相の生誕百周年の年でもあり、同窓会主催として、東大竹内教授による記念講演(百周年記念会館にて)や、学園祭内の資料展示、大平氏を書いた『茜色の空』の生徒への寄贈なども計画致しました。

さて、旧制三豊中学校創立はちようど一九〇〇年(三豊高等女学校は一九〇七年)で、二〇一〇年の今年までの百十年と云う長期間には太平洋戦争・学徒動員・学制改革・経済成長・バブル崩壊など、さまざまな時代経過と激変消滅がありました。が、歴代の諸先生方ははじめ先輩たちが『文武両道』の校風のもと、すぐれた伝統を残

PTAのご協力も頂きました。そして、百周年記念事業を締め括る記念式典を十月二十四日に開催いたし

して今日の観一高を築いて来られました。わが母校からは三万九千余名の卒業生を送り出され、各地・各界で活躍されて参りました。そして現在も、これから先も、観一高は地域文教の拠点としての役割を果たすと共に、さらなる人材を輩出するに違いありません。私達は後進に母校のよき歴史と伝統を引き継がねばならないと思います。内外の課題は山積みしておりますが、同窓会の果たす役割も決して少なくはないと信じます。運営面



ごあいさつ

校長

島田 政輝

会員の皆様には、日頃、本校の教育活動に多大なご支援とご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。この四月の人事異動で若宮前校長の後任として、坂出高校からまいりました島田です。微力ではありますが、今後とも、本校発展のため、全力を尽くす所存ですのでよろしくお願ひ申し上げます。

ところで、今年には学校創立百十

では強制にならない「自主的」な参加を呼びかける一方、数千名の方々から寄せられている会費や募金の、より効果的な運用やガラス張りの報告。「同窓会」の絆を確かめつつも、さらなる「会員相互の親睦と後進の育成をはかり母校の発展に寄与する」ことを常に念じなければと思う次第です。主体者は会員の皆様です。

会員の皆様、どうか健康にご留意の上、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

周年の記念すべき年です。去る十月二十四日には、三百名近い同窓生諸氏のご出席のもと、記念式典が同窓会のご尽力により、盛会裏に開催されました。そして、記念事業の一環として、マイクロバス及び三女講堂のミニチュア模型を御寄贈いただきました。改めて厚く感謝申し上げます。

では、本校の現状を簡単にご説明します。まず、本年三月末の進学実績は、国公立大学は百三十六名で、過去三年間で最多となっております。主な大学は、京大四名、阪大四名、神戸大四名、広大十名、香大二十四名、私立大学では、慶応大二名、早稲田大三名、同志社大十五名などです。部活動では、県高校総体において県新記録で優勝した槍投げの綾さんをはじめ、男子棒高跳び、槍投げ、砲丸投げの陸上部員五人、同じく県大会優

勝の新体操部女子、アーチェリー部男子、水泳部の真鍋さんが、それぞれ、沖縄インターハイ及び千葉国体に出場しました。また、学芸部では、邦楽部が全国高校総合文化祭宮崎大会に、放送部の竹安さんがNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会に出場しました。

ところで、本校の最も重要な責務は、何と言っても、生徒に将来への高い目的意識をもたせることと、「確かな学力」を育成することにあります。このため、現在、「ヒューマンフォスター（学びの力育成）プラン」を学校あげて推進しています。具体的には、土曜日の午前中に発展的講座を行う「樟樹セミナー」や、東大・阪大とインターネット回線を利用して行う「金曜特別講座」、東京方面への大規模旅行、毎朝十五分間の早朝学習・読書などです。また、理科では、一年の夏休みに二泊三日で行う兵庫県立西はりま天文台等での研修合宿、大学等との連携に基づき実験・実習を行う「SPP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）」、各生徒が年間通じて各自のテーマで行う「課題研究」等を実施しています。特にSPPでは、今年初の取り組みとして、国の支援を受けて、「学校のある大地の成り立ちを探る」のテーマで、本校のプール横で約四十mのボーリング調査を行いました。参加生徒は、炎天下での作業にもかかわらず、掘削作業に目を輝かせていました。現在、本校の地下構造の解明に向け、採取したサンプルの調査を、生徒の手で行っているところとす。

会員の皆様方におかれましては、今後とも引き続き本校の教育活動に応援、ご支援賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

創立百十周年 記念事業に ついて

資料館部会

「資料館リニューアル係」では、「資料館」に収蔵されている資料類をもっと活用してほしい」とのご意見をもとに資料館の展示及び資料整備を行いました。

生徒や同窓生の皆様にとつて「資料館」がより身近なものとなり、気軽に資料を見たり観一の歴史について調べたりできるようにしました。生徒には、学校の歴史や立派な諸先輩方の功績を改めて知ることにより、観一生としての誇りを持ち、高い志を持つて一層、勉学や部活動に励むことを願って、同窓生の皆様には、母校や自らの青春時代を振り返って、母校への思いを新たにしていただけのこと

展として展示するために百周年記念館内に「温故知新コーナー」を設置し、本校の沿革史や貴重な資料の一部を展示するとともに、本校ゆかりの先輩方や教職員の書画や著書など見応えのある特別展示もローテーションしながら展示して行くことにしました。後述の『三女講堂模型』も常時展示されています。

また、資料館内部も三中、三女の歴史についての資料は一階に集中所蔵するなど、リニューアルを行いました。収蔵品の写真付き目録も完成し、所蔵品の全体像が明確になったことも大きな成果です。

「先輩文庫・教科書係」では、「先輩文庫」の充実と活用のために著書の寄贈を同窓生にお願いし、百周年記念館の小会議室に本棚を増設し「先輩文庫」を全てまとめて収納しました。また、「先輩文庫」の目録も作成し、在校生に対して「観一新聞」・「図書たより」・「観一ホームページ」等を通じてその存在を知らせるとともに、活用を呼び掛けています。

また、本校でこれまで使われた『教科書』の収集も進めています。

三女講堂部会

本部会では、思い出深い三豊高等女学校の講堂模型を制作するという事業に取り組みました。大正四年（一九一五年）に完成したこの講堂は、当時ハイカラな建物と

して観音寺のシンボルでもありました。女学校の学生は卒業時には講堂前で記念の写真を撮るのが慣例となっていたそうです。

設計図が見つからないため、できるだけ多くの写真を集めるとともに、三女の関係者の方々から情報をいただき当時の様子を復元することを目指しました。そのような資料や情報を基に、高松高専・建築理工学科の北農幸生助教授の指導協力のもと立面図が完成しました。

その後、京阪神・東京の支部同窓会総会で三女卒業生の座談会を実施し、色調や細部の確認を進めました。昨年十二月には業者を決定し、制作を依頼して、本年五月に納品されました。見事な出来映えのこの講堂模型は、現在『温故知新コーナー』に展示中です。

マイクロバス部会

本部会では、十五年間使用し老朽化した先代のものに代わる新しい学校管理自動車を、六月に納車するために検討・準備を重ねてきました。生徒の交通費の自己負担軽減や移動の利便性等を考えると、なくてはならないマイクロバスであり、今後一層の部活動の振興に役立つものと期待されています。マイクロバスは、四〇〇〇ccの二十九人乗りで、装備も充実しています。六月三十日に贈呈式が挙行されました。

記念誌部会

本部会では、記念誌の十月完成を目指し編集作業を進めてきました。この十年間の観音寺第一高等学校の歩みを中心とし写真・図表・イラスト類を多く用い、読みやすく見やすいものになりました。平成二十年度以降の沿革や、その間の生徒教養講座で講師をしていただいた方々による寄稿文のほか、部活動紹介や現在の生徒たちの学校生活のグラビア写真などが掲載されています。また、三女講堂にまつわる座談会の様子や、戦後歌われた愛唱歌のことなど、今回の記念誌編集を機会としてまとめられた内容も掲載されています。

募金部会

本部会では募金目標の二千万円を達成することができました。多くの同窓生の皆様、関係各位の皆様のご支援をいただきました。誠に有り難うございました。深くお礼申し上げます。

記念式典部会

本部会では、平成二十二年十月二十四日（日）に、観音寺グラウンドホテルにて開催いたしました同窓会主催の創立百十周年記念式典を企画・準備してきました。

式典の後に、大西廣氏（昭和三十年観一卒元コンビア大学教授）による記念講演が行われました。その後、母校邦楽部の生徒による琴の演奏があり、記念祝賀会を盛大に開催いたしました。